

丈夫な血管 長生きのもと

何年もかけて足の動脈が狭くなったり詰まってしまうったりする病気を閉塞性動脈硬化症と言います、安静時には自覚症状はなく、百

―二百歩を歩くと足の筋肉が張り、痛くて歩けなくなる間欠性跛行を起こすと前回お話ししました。

閉塞性動脈硬化症④

間欠性跛行があったらすぐに血管外科で手術をしないと、足が腐って切断という事態になるわけ

ではありません。この症状がある患者さんを五年間診ていても、切断の可能性があるほど悪化する人は5―10%程度です。間欠性跛行の時に、きちんと治療を始めて生活改

善をすれば、大きな手術を受けずに済みます。

最も重要ですが、困難なことは禁煙です。お酒は健康に良い量もありますが、たばこは健康障害しか起こしません。血液を固まりにくくし、血管網を発達させる薬を飲ん

でも、たばこによる逆の作用の方がもっと強いのです。

一日に十回も服用する薬はありませんが、たばこを十本吸う人は多くいます。たばこはきつぱりやめないと、どのような治療も有効ではありません。

禁煙と内服薬、運動療法だけで、八割くらいの人が、日常生活に支障がない程度歩けるようになります。日常的に坂道や階段などを上り下りする時に間欠性跛行が続く人には、原因となっている部分の血管を風船の付い

たカテーテルを使用して拡張し、内張りにステントという金属を入れることもあります。

病変の場所に依じて、手術も選択します。この場合も、禁煙していない患者さんでは、治療効果が長持ちしません。糖尿病のコントロールが悪い患者さんと同じです。結局、自分の努力なしでは良くなりません。

まず禁煙きつぱりと

先生 尚道 錦見
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。